

【特別支援学校のセンター的機能】



～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

4～10月までの相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	その他	計
件数	127件	313件	28件	8件	15件	491件

(その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼)

専門アドバイザーの仕事を紹介します。



訪問していろいろな子どもを観察していると、これは近い将来困るなあとすることがあります。

よく見かけるのが、幼稚園や保育園の先生に、後ろから走ってきて勢いよく飛びつく例です。1. 2歳の小さいうちなら先生方もそれほどの衝撃はありませんが、年中や年長になって、教師が後ろを向いているにもかかわらず、飛びつくのです。年配の女性の先生は背中が痛い嫌がり、男性や若い女性の先生方は驚くけれど自分たちのところに来てくれたことで喜び表情をするという、教師によって違う反応が返ってくる例です。子どもも注意される時と喜ばれる時があるので、反応の違いがおもしろく、教師の不意を狙って飛びつきます。本当はやめてほしいと思っているのに、こんな曖昧な表現をしていたら飛びつく行為はなくなりませんし、教師に怪我をさせてしまいます。また、周りの状況を見ないので、他児が教師と話をしていれば他児も怪我してしまいます。先生方で話し合いをして、指導

を統一しましょう。「先生、いい?」と言って許可を得られたら、前から先生の胸に飛びつくようにさせ、それ以外は受け入れないという方法は効果的です。

また、小学校でたまに見かけるのが、校舎内の窓から外の通行人に向かって大きな声で話しかける例です。知っている人に声をかけているなら良いのですが、全く知らない人に声をかけています。休み時間で特に問題はないと、廊下を通る先生方は特に気にしていませんが、知らない人に意味もなく声をかける行為は、校外に出たときに誰にでも声をかけるという行為に発展します。

また、授業中にきれいな字を書こうと何回も何回も字を書いたり、消したりしている子どもを見かけます。字をきれいに書かせたい教師は特に何も声をかけませんが、中学生くらいになると書いて消す行為を繰り返すことをやめさせたいという相談があります。良い加減といいますが、きっちりやることが逆に日常生活を生きづらくしてしまうこともあります。

以上、3例を紹介しましたが、将来困ることはどんなことかを教師が理解し、習慣になる前に指導を入れられると良いですね。周りを見て柔軟に行動を変えるのは難しいという特性を持っている子どもも多く、習慣になるとなかなか改善するのが難しくなってしまいます。

将来を見越した指導・支援が大切ですね。

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。

お待ちしております。



群馬県立しrogane特別支援学校

専門アドバイザー 尾岸 純子

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113

mail shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp

(アドレスを変更しました)